

令和7年度第6回 太田市1%まちづくり会議 議事概要

会議の名称	令和7年度第6回1%まちづくり会議
開催日時	令和7年8月28日(木) 18:00~19:30
開催場所	太田市役所 5階 5A 会議室
出席委員 (代表氏名)	1%まちづくり会議 佐藤 広大 委員長 他13名

1. 開会

2. 挨拶

佐藤委員長より挨拶

3. 協議事項

(1) 6次募集審査について(申請2件 No.133~134)

No.133 くみまちもりたフェス~3ヵ月に一度の地域交流祭~(もりフェス実行委員会)

委員:毛里田地区の方の参加は。

事務局:実行委員は皆さん毛里田の方で、出演者も太鼓などは毛里田の方。他のダンスなども、毛里田の方も参加しているとのこと。

委員:目的というか、何のためにやっているか、いまいわからない。配置図で目に入るのはキッチンカー。タイムスケジュールを見ても、何を主体にしたいのか。キッチンカーを設けたいのか、ステージをメインにしているのか。なぜカインズ駐車場を利用するのか。

委員:もともと祭りを初めて申請する時はこんなもの。毛里田地区はあまり祭りの申請がない。実行委員には市議もいるし、ちゃんとやるだろう。責任もあるだろう。私は頑張れよとエールを送りたい。

委員:アナウンサーの報償費が1回33,000円だが、太田まつりでは、税込で30,000円。なぜ高くなったか疑問。備品のステージマットは、ずっと使うのか。雨に濡れたら使えなくなるのでは。

委員:1%まちづくりという事業の補助金をいただくということで、基本的に曲げてはいけないことは、やはり汗をかいていただくこと。そして、どうしてもこれだけ足りないから補助金をお願いしたい、というところがベースにあると思う。だから環境整備とか汗をかく事業はわかりやすいが、こういうイベントは非常にわかりづらい。この辺を慎重に取り扱うべき。実行委員も、始まればメンバー集めて名簿くらいすぐできるだろうし、イベントもできると思う。カインズにも協賛してもらえばいいんじゃないか。報償費のアナウンス4回分13万くらいを協賛金として。あまり汗を感じさせないようなものは、ある程度補助金を減らす。そういう基準はあるべきかなと感じた。

委員:このイベントは若者向けのイベントだと思う。事業効果には、「高齢者の方との交流」とあるが若者向けに感じた。あと、パンチカーペットの耐久性がわからないが、いいものなのか。また、

パンチカーペットの運営撤去費用が高いので、毎回かさむのがどうかと思った。

委員：マットとあるが、障がいの度合いによっては非常に危ない。マットを敷いて逆に大丈夫なのか心配。

事務局：マットは自分たちで撤去して保管するという事なので、納品時の運搬費は計上されているが、撤去費や次回以降の運搬費などはかからないとのこと。団体からは、マットを敷くと、お子さんや障がい者も参加しやすくなると聞いている。

委員：マットの見積もりは妥当かと思う。

委員長：今いろいろ話が出ているが、1%の趣旨に合致してるかというところ、汗を流すという意味での趣旨に沿っているかというところで、検討していきたい。

委員：地域を盛り上げるということでこのイベントには大賛成だが、市民が関わって汗を流すという、その辺が見えない。例えばステージ運行及び司会を実行委員会がどのような形で、この運営をサポートしてるのか、それがちょっと見えない。確かに毛里田地区はやるところがあまりない。それを地域で盛り上げてという、そういう気持ちはわかるが。

委員：私は毛里田で、前にもいろんなことをやってきた。自主的に毛里田を何とかしようというのがあり、区長会の方も協力して、人数的にはかなり集めてくると思う。私も心配で実行委員に確認したら、とりあえずやりたいと。まだ、全体的な像ができてないのが実際だと思う。計画書を見ると音響もない。今回は間に合わなかったので予算に入れられなかったが、とりあえずやってみて、今後、不足するものを要求していくという形。ただ3ヶ月に1度やるのはきつから年に2回くらいになってしまうと思う。前もコロナ前にキャンドルジュンさんと呼んでゆりの里でやっているの、実際的にボランティアは結構集まると思う。毛里田は特に年寄りが多いので地域活性化のためにやりたいと聞いた。

委員：汗が少ない事業は自己負担で費用を捻出してもらい、汗をかくものは市税で面倒見ようというのが見えるとわかりやすくいい。汗をかかないのに満額近く補助金をもらうのはいかかがかというところがある。

委員：1%は昔からずっと継続事業が多い。継続だけでなく新規事業の申請が増えて欲しいと何年も言ってきた。皆さんが出した貴重な意見を、最終的には我々が通してやりたい。特に新規の場合は、私はそういう思いがある。

委員：心配の種が多いが、今回はとりあえず許可をして、後で組織とかを出してもらうようにすればいいと思う。

委員：市民へのPRとかは、どういう形ですか。

事務局：区長会を通して回覧など、あとはSNSなどを活用すること。

委員：いろいろ出た意見を事務局から話してもらって、今回はやってもらって、問題点は次回に改善して申請してもらえばいいと思う。私は認めてもいいと思う。

委員：今まで他の事業もプロの司会になってきて、地元の方がだんだん減ってきてしまうと、この行事は何だろう、何のために税金を使うのと思う。補助金を100%でなくて、今回は2割3割にして、様子見で、だんだんそれなりになってきたら大体やろうよという考え方もあるのかなと

思う。

委員長: 司会とマツが本当に必要か、あとは、汗を流す事業であるかということを事務局からもう一度、申請団体に確認をしていただいて。

委員: 今現在検討している申請書は未熟。音響機器、周りの整備、安全管理など入っていない。何とか地域を盛り上げたいという思いに対し、ちょっとアドバイスしてやるというかと思う。

委員: 事業自体はおそらくみんな賛成だと思う。だから、採択するとすれば事業の採択はするが補助金については未定という形で採択すればいいんじゃないか。詳細が後で出てきた段階で補助金をちゃんとつけて。そういう方がまだ建設的かなと思う。音響も決まってない何もわかってない、それで補助金額を決めろというほうがよっぽど乱暴な感じがする。音響なんて、確認してもらって経費はずっと膨れ上がると思う。楽しくやるイベントなのだから、ある程度は自分たちで財源も持ってもらわないと。そういう金銭的な面も厳しいと伝えてあげたほうがいい。じゃないといけない。

事務局: 採択通知は、この事業についてはこの金額で採択になったという通知なので、事業だけ採択して金額は未定という採択通知は出せない。

委員: 音響なども入れてもらえれば支援できるので、再提案という形でまた出してもらうのがよろしいか。そうすると9月のイベントは間に合わないので12月からになってしまうと思うが。

委員: 項目を全額負担するか、何割か負担するかでいいのでは。

委員: 判断材料が今ないので、30万の事業だから、例えば15万円の補助金をつけるという形でスタートしたらどうか。例えば報償費、13万2000円のアナウンス代は捻出してもらう。

委員: なぜこんなに急いで出したか。もっと早く出せばいい。

委員: 再提案で出していただいて、ちょっと煮詰めていただいた方が審議がしやすいと思うが、もう始めちゃってる。先走っちゃってるところがある。

委員: しっかりと再検討していただいて再申請していただいて、また審議にかけていただいたほうがいいかなと思う。

委員: これまで司会者無しで、時間になると団体がステージでパフォーマンスして、次に交代してという感じで進んでいたイベントでやればいい。うちのほうも先週末にイベントやったが、地元の人が司会だった。地域にいるよ。

委員: プロの司会は全然違う。それはわかる。

委員: 再申請でまた提出していただくか、金額を減らすか。

委員: 例えば2回分に関わるものは1回分の補助にする。それを整理してもらい、次の会議で結果を聞いて、それで了解するのが一番早い。今年度は1回分しか出ない。2分の1にする。別に司会はプロでなくても地元の人でもできるんじゃないかという意見が出たのでそうなったと。

委員: スタッフが司会をするのであればその分の報償費は出ない。

委員: 報償費は、現行の基準では、外部講師や出演者の謝礼、専門的技術を有する協力者への謝金等で、「外部」というところで、一応、役員ではないけれどそれなりの関わりがあるというところで、難しいのではないかな。

委員:今後当然継続になると思うので、100%にするかちょっと減らすか。そこ一番問題だと思う。

100%出すのはまずいと思う。

事務局:例えば、地域で司会を見つけていただくなど検討してもらおうということで報償費は今回無しで、あと、マットについても、金額を決めて採択かを図るのはいかがか。

委員:報償費の基準があり、それを何%出すかという基準との整合性が難しいのだから、ゼロにすればいいと思う。司会をプロに頼んでもいいが、その費用は自分たちで捻出してくださいということにするのがいいんじゃないか。それが一番、みんな汗かいてると感じる。

委員長:それで採択を取らせてもらうという形でよろしいか。

委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.134 町民の森公園にイルミネーションを灯す(太田市社会貢献活動連絡協議会)

委員:点灯式は何のためにやっているのか。ボランティア団体の発表会があるが、このイベントは1%まちづくりから補助が出ているというのが一言もない。すべて私たちがやっているというイメージ。それならこの点灯式はあくまでその団体の点灯式。だとしたら、それは自分たちが出すべきものであって、1%で出すものではないと思う。1%まちづくりの表示がどこにもない。

副委員長:委員長をやっていた際に、点灯式に招待され、挨拶をさせていただいて、1%事業についてPRさせていただいた。

委員:当初は、早く10万球にしたいとのことだったが、これ見るともう50万球超えるようになった。八王子山公園のイルミネーションはなくなったが、このイルミネーションは優れている。県外からもお客さんがいっぱい来て、みんな楽しんでいる。道路条件がいいし、道の駅もある。すてきだなと思う。

委員:この事業はボランティアの方が8月から作業を進めている。点灯式も弁当は出ない。あくまでも作業者のみ。点灯式には、太田市長をはじめ、教育長やいろいろな来賓と1%の委員長も出席している。ボランティアがイベントの司会進行から音響も全部やっており、費用はかかっていない。12回もやっていると電球など老朽化しているので、今回初めて電球を全取替える。あと駐車場警備が、今までいろいろと不備があったのと、ボランティアが点灯式に出られなくなることもあり、専門業者にやってもらうほうがいいとなった。最低限の予算になっている。次回は原材料がかからないのでぐっと下がる。点灯式の司会は会長が進行している。

事務局:1%の表示は点灯式のチラシに入っていて、会場にも夜でも見えるように掲示すること。

委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

協議結果:6次募集【採択 2件】No.133～134

【再提案 0件】

【不採択 0件】

※詳細は別紙のとおり

4. その他

(1)採択基準の見直しについて

委員長:採択基準の検討予定だったが、次回、検討させていただくということで、よろしくお願いいたします。

5. 閉会